

**東日本大震災復興支援事業  
ケアする人のケア  
東北ドキュメントプロジェクト**

**概要**

**財団法人たんぽぽの家**

〒630-8044 奈良市六条西 3-25-4

TEL:0742-43-7055

## 【目的】

表出されていない被災地のケアする人の声(災害時・後・現在の思いなど)を記録し、映像やテキストをととして社会化し、そこに内包される知恵や学びを共有して行くことを目的とする。

## 【背景・課題】

東日本大震災直後、福祉施設や医療機関などでケアする立場にある人は、自ら被災しながらもほとんど休みなく支援(ケア)にあたっていた。その状況は現在も各所で続いている例があるが、報道される機会は少なく、周知されていない。ケアする人は自分自身が被災者であることからくるつらさや、支援にあたる立場であることから言いだせない不安など、さまざまな思いを抱えていると考えられる。また、被災の経験から得た知恵や学びを発信する場がまだ少ないと考えられる。そこで、立場上自身のつらい状況や思いを表出しにくいケアする人が声を発せられる場をつくり、情報を共有、周知されるとともに、そこからケアする人のケアにつながる支援体制をつくる必要がある。

## 【対象】

自らも被災者でありながら支援にあたるケアする人(障害者、高齢者等福祉施設職員、医療関係者、支援学校教諭などケアする仕事に就いている人、家族介護をになう人など、ケアに携わっている人)を対象とする。

## ○取材先

- ①田口ひろみさん(社会福祉法人山元町社会福祉協議会 工房地球村施設長)
- ②小泉大輔さん(社会福祉法人山元町社会福祉協議会 山元町障害者地域活動支援センターやすらぎ作業所相談員)
- ③中村怜子さん(特定非営利活動法人住民互助福祉団体ささえ愛山元理事長)  
瀬戸恵子さん、佐々木節子さん(特定非営利活動法人住民互助福祉団体ささえ愛山元管理者)
- ④藤本和敬さん(テラセン[おてら災害ボランティアセンター]センター長)
- ⑤滑川明男さん(仙台市立病院救命救急部医長/仙台グリーンケア研究会代表)
- ⑥谷津尚美さん(特定非営利活動法人アフタースクールぱるけ代表理事)
- ⑦近田真美子さん(東北福祉大学健康科学部保健看護学科精神看護学講師)
- ⑧畠山光浩さん(社会福祉法人洗心会 のぞみ作業所所長)
- ⑨佐藤利憲さん(仙台青葉学院短期大学看護学科精神看護学講師/NPO 法人子どもグリーンサポーステーション理事)
- ⑩三浦正悦さん(医療法人心の郷穂波の郷クリニック理事長)、大石春美さん、(医療法人心の郷穂波の郷クリニックゼネラルマネージャー)
- ⑪庄司和弘さん(震災こころのケア・ネットワークみやぎ からこころステーション相談員)

## 【方法】

- 現地調査
- インタビュー収録
- 「ケアする人のための参加型インターネット放送局 ケアラーズジャパン」(<http://care-jp.tv/>)を媒体に動画コンテンツあるいはブログ記事として発信。
- 継続的な記録・情報発信ができるよう、技術レクチャーの講座を開講(2013.3.20)

#### 【事業の発展性】

- 本事業と並行し、ウェブサイト「ケアラースジャパン」にて、多様なケアや支えあいの文化や仕組みに関する情報発信を全国に向けて発信していく。これらのサイトだけでなく、その他のメディア・NPO と連携し、同時多発的に本事業およびケアや支えあいの活動の情報を発信する。
- ケアする人、支援活動をしている人が困難を抱えている地域・団体・事業の現状を伝えることにより、本当に必要なところに人的物的な支援が行き渡るよう呼びかけていく。
- ケアする人の視点からの知恵が、他の地域のケアする人、福祉関係機関等の日常の業務や防災の取り組みに役立つ。

#### 【ケアする人の現状(2012年度の活動を通じてわかったこと)】

- 公務員や消防士などと同様、職業的な使命感によって亡くなったケースもあるが、社会的にあまり認知されていない。
- 自らを顧みず他者をケアし支える人々は、今の東北の現状や自身の体験から得られた知恵など情報を発信し、多くの人に知ってほしいという気持ちを強く持っていることがわかった。誰かを支えることが逆に自分にとってエンパワメントとなり、生きる原動力となっている。
- 日々の業務・支援活動で忙しく情報発信をする余裕がない人こそ、有益な情報を持っている。
- 情報発信ができないために、必要な支援が受けられない団体・個人が多数存在している。
- 被災地は未だに困難な状況であるにもかかわらず、被災地ではない地域(特に遠く離れた地方)では、震災や被災地に対する意識がどうしても薄らいでいく傾向にある。
- ケアする人、支援活動を続ける人の抱えるさまざまな問題や苦悩は厳然としてあり、語りなおしのプロセスを支え、社会全体で受け止めていく必要がある。
- 復興の進捗状況に格差が生じており、岩手県や福島県の被災地のケアする人の声・情報も発信していく必要があるだろう。